

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第233号 2012年7月14日

OCHADAI GAZETTE Summer, 2012



写真: 杉井 昭子 (理学部生物学科2年)

しなやかな強さを

CONTENTS

TOPICS

- | | |
|--------------------------------|------------------------------------|
| 平成24年度入学式 1-2 | キャンパス点描 9-10 |
| 学長告辞 | ● 第5回ホームカミングデイを開催しました |
| 学生のアクティビティ 3-4 | ● 桜蔭会研究奨励賞授与式、みがかずば奨学金授与式がおこなわれました |
| 教員紹介 5 | ● 学部生成績優秀者奨学金授与式がおこなわれました |
| ● 上原 泉先生
(人間文化創成科学研究科人間科学系) | ● 春の叙勲受章者(本学関係)について |
| 卒業生紹介 6 | |
| ● 福田 愛奈さん(生活科学部人間生活学科卒) | |
| 附属学校園からのお知らせ 7-8 | |



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

平成 24 年度入学式

学長告辞



新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。皆様のご入学を心から歓迎いたします。そして、保護者の皆様に謹んでお祝い申し上げます。

また、本日ご臨席いただきました来賓の皆様にご挨拶申し上げます。

本日入学された学生の皆様には、この大学の教育環境を存分に活用して自らを磨き鍛え、そして新しい自分を創り上げていただきたいと思っております。

お茶の水女子大学の校歌は、日本で初めて作られ、また、最も短い校歌といわれています。

みがかずば 玉もかがみも なにかせん
学びの道も かくこそ ありけれ

これが本学の校歌です。

学問に携わる人は誰も、自らを練磨し、知を学び、知を創造することが求められています。

では、大学では何を、如何にしてなすことができるのか。

「我思う ゆえに我在り」というデカルトの言葉があります。

私たちは目に見えるもの、触れることのできるもの、を確かな存在とみなしがちですが、そのことを改めて問うたのがデカルトでした。そして、問い続ける「我」に一つの根拠を見出しました。

関心のある対象をどこまでも問い続ける姿勢は、どの学問にも共通します。ですがそこに至るまでの手掛かりになるのは、専門的な方法論であり、思考法であり、物事を明らかにするには様々な方法があることを認識するのが重要です。それによつてはじめて、独断的な思考から脱することができるからです。

大学教育を受けた者の「見識の高さ」は、そうした訓練によつてはじめて身につくものであると私は考えています。そして、お茶の水女子大学の学部教育の真髄はここにあります。

平成 20 年度に開始した「21 世紀型文理融合リベラルアーツ教育」と、昨年からは実施している「複数プログラム選択履修制度」は、そのための教育システムであり、課題に対する多様なアプローチの仕方を学び、さらに、主体的に専門性を身につける教育システムです。

東日本大震災で痛感させられたように、私たちが今直面している社会的課題はきわめて複雑であり、解決のためには複合的な視点が必要です。しかもそれは課題ごとに異なります。その時に手掛かりになるのは確かな専門的知識です。大学で学ぶ者として、皆様は、広く柔軟な視点と、確かな知識を身につけることを心がけてください。

課題を見つけ、解決方法を学びながら専門的知識を修得していくのが本学の学び方ですが、これは優れた研究者が教員として身近にいるからこそ可能なものであり、また小規模大学であるからこそできる教育といえます。それに加えて、主体性があり、自律的で、優秀な学生がいるからこそ実現可能な教育方法です。

さらに、本学は国立の女子大学として、リーダーの育成に力を入れています。女性の大学進学率が短大も含めると





50%を超えているにもかかわらず、現在、例えば、公務員、企業での役職者の割合は10%台に過ぎません。先日、ある審議会に出席していて、委員のうち三分の一がお茶大の出身者であることに気がきました。本学の卒業生は、多く社会的に活躍していますが、卒業生がこれまで以上に社会貢献するだけでなく、社会全体として女性の社会参加の機会を増やすことを目指してリーダー育成プログラムを実施しています。

その際に私たちが目指しているリーダー像は、単にトップリーダーだけではなく、各自が、持てる力を発揮することによって組織を強化し、社会基盤を充実させることを通して社会を牽引する立場に立てるリーダーです。したがって、お茶の水女子大学でのリーダー教育では、知性を磨き、他者を尊重し、しなやかな強さを身につけることを重視しています。

確かな専門的知識を習得し、独断に陥ることなく、多様な在り方を理解する柔軟な姿勢がリーダーに必要な条件であると考えているからです。

他者を尊重することの一つの具体的な事例といえるかもしれませんが、あるいは社会貢献の一つと申し上げた方が適切かもしれませんが、今日、新入生の皆様にお渡しする資料を入れたトートバッグは、大学からの贈り物でお茶大グッズの一つです。大学グッズは現在14アイテムを開発していますが、昨年、これらの売り上げの一部を、NGOを通して途上国の女子教育支援に役立てるよういたしました。これは、国立大学のグッズとしては初めての試みでした。

教育の面での途上国の女子教育支援は高く評価されていますが、私たちはこれからも、社会とともにあることを大切にして教育機関としての役割を果たしてゆきたいと考えています。

「21世紀型文理融合リベラルアーツ教育」、「複数プログラム選択履修制度」、そして「リーダー育成」が本学の教育の主要な特色といえます。その根底にある教育の本質は、人間性の練磨、あるいは高い見識をもつ人間を育てることにあると考えています。

大学で学んでいただきたいのは、単なる方法や技術ではなく、適切に判断する能力です。

「何が実際になされているかではなく、何がなされるべき

かを判断する能力」あるいは、「なすべき事柄を判断する能力」を身につけていただきたいと思います。

お茶の水女子大学は明治8年(1875年)に設置された東京女子師範学校を前身とし、今年で創立137年になります。

創設時は湯島(お茶の水)に校舎があり、当時「お茶の水の学校」と呼ばれていたことが記録されていますが、1923年の関東大震災で校舎を焼失し、9年後1932年にこの地に移転して、この建物、大学本館が建設されました。

大学本館は、大学講堂、正門、附属幼稚園とともに、国の有形文化財に登録されていますが、建物の外壁のスクラッチタイルは当時として最新の様式であり、また本館玄関の大理石も当時の最高級の素材で作られたといわれています。そしてこれらの事実はいずれも、本学の教育に対する、当時の社会的期待の表れだったといつてよいでしょう。

創設時は、教員の養成機関として期待され、そして今は社会の多様な領域に卒業生を送り出していますが、創設以来、変わることなく本学は社会の大きな期待を担い、そして、それに応えてきました。

皆様がいらつしゃるこの大学講堂は、徽音堂と名付けられています。「徽」は「しるし」、「徽音」は美しい音、あるいは優れた教え、などの意味があるといわれています。この「徽音堂」は「優れた知の殿堂」といつてよいかもしれません。

お茶の水女子大学では入学式や卒業式など、大学にとって大切な行事をこの講堂で行います。それは、本学の輝かしくも堅実な歴史とともに、教育と研究の真の在り方を顧みつつ、社会の期待に適切に応える決意を新たにすることもあります。

今日から皆様がこのキャンパスで豊かな学生生活を過ごされ、そして4年後、それぞれが確かな知識と、見識と、そしてしなやかな強さを身につけて、この講堂で卒業の日を迎えられますことを期待しています。

皆様のご入学を心からお祝い申し上げます。

平成 24 年度入学式
学長告辞

学生のアクティビティ

お茶の水女子大学には、国際学生宿舎、小石川寮、お茶大SCCの3つの学生寮があります。今回はその中の一つ、お茶大SCCのご紹介です。

お茶大 S C C

Students Community Commons



SCC外観

お茶大 SCC とは？

お茶の水女子大学には、留学生と日本人学部生対象の「国際学生宿舎」と大学院生対象の「小石川寮」、そして学部1～2年生対象の「お茶大SCC (Students Community Commons)」の3つの学生寮があります。

お茶大SCCは、人と人とのつながりを大切にする新しいタイプの学生寮です。5人1組で「ハウス」を構成して暮らすルームシェア型の学生寮で、プライバシーを守った個室を確保しつつ、キッチンや浴室、リビング等は共同で使用します。そしてハウスメンバーと共に暮らし、助け合いながら、共に成長し、それぞれが自己実現を目指します。

寮生活は学生たちの自主性が尊重されており、寮生は協力して様々な役割を担います。ハウス長を始めとした委員会活動の他、ウェルカムパーティや寮祭など、寮生が企画するイベントもあり、さらに大学側からは寮内での学びの場として、学修プロ

グラムも提供されています。また、大学からのサポート体制も整えられている他、管理人の常駐と夜間警備員の配置など、セキュリティ面にも細心の注意が払われています。

お茶大 SCC のイベント

お茶大SCCには、さまざまなイベントが用意されています。年間を通して行われる学修プログラムは、第1回～第4回まであります。第1回・第2回では、お茶の水女子大学の先生に講演をしていただき、第3回・第4回では、寮生が日ごろから興味・関心を抱いている話題について、学外の講演者をSCCにご招待して話を聞き、学びを深めます。今年度は「地域・社会との共生」をテーマに、お茶大SCCが社会とどのように関係していくかについて考えています。

また、毎年10月頃には寮祭が行われます。寮祭は、寮生がSCCで学んだ成果を発表する場です。ハウスメンバーの5人が普段どのように共生しているのか、たった10しかハウスはありませんが、それぞれに違ったスタイルがあります。それを相互に認知することで新たな発見が



寮祭の様子



ハウスリビング

できるなど、面白い行事です。今年の寮祭では、フリーマーケットなども行い、昨年以上に盛り上がる様相を見せています。他にも、自主企画やワークショップなど、イベントは盛りだくさんです。

文責：越智由紀子
(文教育学部人文科学科 2年)

お茶大 SCC での 1 日のスケジュール

私は SCC に住んで今年で 2 年目になります。今回は、私の SCC での 1 日について書きたいと思います。

まず、朝学校に行くときは、同じ時間に授業が始まる場合、寮生同士、一緒に登校することもあります。SCC は、大学まで徒歩 3 分で、通学にとっても便利な環境です。大学では、みんな学部や学科がばらばらなので、あまり一緒に行動することはありませんが、SCC に帰ったら、ハウスメンバーがいて、それぞれご飯を作ったりしています。みんなの作るご飯はとてもおいしそうで、お互いに何を作ったか教えあったりもします。時には、自分で作ったお菓子をお裾分けしたり、一緒にご飯を作ったりもします。ご飯の後は、リビングでテレビを見て話をしたり、みんなで課題をしたりなど、自由に時間を使っています。このように、私のハウスは、ハウスメンバーがそれぞれ自分の分の家事をすることを原則にして、生活しています。

その他にも、皆、バイトやサークル等で忙しいので、個人の予定や時間を大切にできる、現在の生活スタイルが私たちには合っていま

す。それぞれが心地のいい環境を作れているのでハウスでも過ごしやすし、他の人の生活の様子を見られるという点でも、とても勉強になっています。

文責：三次好華
(文教育学部言語文化学科グローバル文化学環 2年)

お茶大 SCC での暮らし

お茶大 SCC は 5 人で 1 ハウスを形成しており、キッチンやリビング、トイレ、お風呂などを共有スペースとして、勉強机やベッドなどを個別スペースとして、各ハウスがそれぞれ所持しています。まるで一家族のようなこの形態での暮らしは、共に生き、共に学び、共に成長するという SCC の理念に非常に適しています。私生活を他人と共にする事で学ぶことは想像以上で、価値観や考え方が違うのはもちろんのこと、日々の生活の中で重点を置いている事も、食べるものも寝る時間も、見る番組も何もかもが「5 通り」です。その中で得るのは大きく、新たな発見や驚きを感じる毎日です。しかし、他人と暮らすということは当然良い面ばかりではなく、ストレスを感じたり、問題が生じたりもします。それにどう対処するのか。自分で考え、かつ皆で話し合い、解決していくことで、「共に成長」していける、それを可能とするのが SCC であり、SCC でしかできないことではないでしょうか。

文責：原田美緒
(文教育学部言語文化学科グローバル文化学環 2年)



SCC ワークショップ

教員紹介

今回は、人間文化創成科学研究科人間科学系准教授の上原泉先生をご紹介します。

上原先生は、大学院では人間発達科学専攻心理学コース、また学部では文教育学部人間社会科学科心理学コースご所属です。



Uehara Izumi
上原 泉

生涯発達の視点から人を捉える

トに追われるという日々を過ごし大変な思いもしましたが、人の心や行動は、状況によって変わりますし、自分のことを自分が一番わかっているようで実はよくわかっていないことが多く、直感やちよつとした印象では、人の心や行動についての真実はわからないということ、心理学の演習を通じて納得できました。また、期限に追われながらレポートを書いて何とか間に合わせて提出するという経験は、今にして思うと、貴重な経験であったように思います。社会に出ても役立つか経験だと思いました。

心理学は、調査や実験をするのに、協力していただく人々を必要としますし、規模が大きい調査や実験の場合は、チームを組んで行きます。そのため、人とのつながりもできやすいですし、自分自身の人間関係スキルを身につけることにも役立つ学問であると思っています。

お茶大の印象、 学生に向けてのメッセージ

お茶大に赴任してから2ヶ月近く経ちましたが、お茶大の学生は真面目で勉強熱心だと感じています。何事も真面目に取り組むということをしなければ、実を結ぶことは少ないと思います。これまで多くの人材がお茶大から輩出されてきたことに納得がいきます。ロールモデルとなるような女性先輩、学内に多くいるというのがお茶大の強みだと思います。

多くの可能性を持っている皆さんですから、どうか少々の失敗にくじけることなく、いろいろなことに挑戦し、有意義な学生生活をおくってください。

文責：西川朋美
(大学院人間文化創成科学研究科
文化科学系助教)



ご出身、ご経歴などについて

東京大学を卒業後、東京大学大学院に進学し博士号を取得しました。その後は、ポスドクの研究期間を経て、長野の清泉女学院大学、東京外国語大学で勤務し、この4月からお茶の水女子大学に着任しました。生まれは東京ですが、人生の大半を埼玉で過ごし、長野で過ごした数年以外は関東圏内で生活してきました。学生時代も含め、複数の大学で過ごしてきたことにより、興味や研究の範囲が広がっていったように思います。

ご専門の内容について

今の研究分野に興味を持ったきっかけ、
学生時代の研究内容

最初は、子どもの発達というより、人間の記憶に関心がありました。卒論研究の調査で、大人の幼少期の記憶を調べたところ、3、4歳以前がほとんど想起できないことがわかりました。高齢者や小学生でも調査しましたが、やはり、3、4歳以前をよく憶えていないのです。そこで、3、4歳前後の乳幼児ではどうなのだろうかと思ったのが、子どもの研究を始めるきっかけとなりました。

幼児期の記憶が大学院時代の研究の中心テーマになりましたが、子どもたちを対象とした調査・実験を積み重ねていくうちに、幼少期にみられるさまざまな発達の変化に関心を持つようになり、心の理解、社会性、学習、ことばの発達など、興味の範囲は徐々に広がっていきました。

現在・今後の研究内容など

どのような思い出が後々まで残っていくのか、

また、記憶はどのように変遷していくのかについて、数人の方を20年近くにわたって追わせていただき調べていますが(大方の分析はこれからですが)、人が思い出を語ることや、家族や友だち等との間で記憶を共有することの意味について考えるようになりました。非言語的に、身体で憶えているような記憶も多くありますが、ことばで表現する、語るということと記憶は密接な関係にあります。

現在、ことば、意識、記憶の発達の関係に焦点をあてた調査を検討しています。乳幼児期から児童期への過程に特に注目しています。就学前後で、読む、書くことができるようになるにつれ、表現の仕方や語り方はもちろん変わりますし、記憶や思考の仕方も変わってきます。それらがどのように質的に変わっていくのかは、まだよくわかっていません。児童期以降の学び、人との関係性の築き方などに少なからず関連があると思いますので、今後追うべき興味深いテーマだと思っています。

また、少し欲張りですが(笑)、今後は、生涯発達の視点での追究をできればと考えています。前述のとおり、縦断的な事例研究を行ってきましたが、人は生涯にわたって成長し発達していく存在であると気づかされました。一人で詳細に追わせていただくには限界を感じていますので、将来(絵に描いた餅のような話ですが)、生涯にわたって人の発達・成長過程を丁寧に追っていくような研究プロジェクトをたちあげられればと漠然と思い描いていたりします。

心理学という学問について

大学に入ってから心理学を最終的に専門に選んだのは、もちろん、人の心や行動を追究する学問に関心があったからですが、人の心や行動を、より実証的な手法で追究するという方法論にも興味を覚えたからです。心理学科に入ってから、実験演習や分析のレポー

附属学校園からのお知らせ

附属中学校便り

春は行事満載です。！！

—— 10年ぶりの修学旅行 ——

4月23日(月)から25日(水)まで2泊3日で、3年生が修学旅行に行きました。附属中学校としては、10年ぶりになります。岩手県をグルッと回るようなコースでした。新花巻で東北新幹線を下車し、東北の地を踏みました。遠野まで移動し「HOME 愛しの座敷わらし」のロケでも使われた、遠野ふるさと村で昼に「岩魚御膳」を食べ、開村式後農業体験をさせて頂く農家の方々と共に分かれていきました。1軒のお宅に4名程度で丸1日お世話になり普段では体験できない生活を送りました。この体験の様子は現地のメディアに取材を受け、岩手日報や東海新報などの記事にもなりました。2日目の午後はコース選択で民話の里遠野を散策をしたグループや、花巻の宮沢賢治ゆかりの地を見学したグループなど、まさに「デスティネーションいわて」を体験し



高館で芭蕉の句を詠みました



とおの昔話村



農業体験

ました。最終日は、昨年世界遺産になった平泉地域・中尊寺を見学しました。芭蕉に思いをよせ、高館の義経堂から北上川と衣川を眺めました。中尊寺の金色堂はそのすばらしさに息をのむ生徒も多くいました。また、毛越寺の庭園も楽しむことができました。以前に比べるといろいろなところが大分整備され見学しやすい環境が整えられていました。

生徒達は、2年生の林間学校で身につけてきた集団生活でのあり方をしっかり発揮し、とても立派な行動が取れていました。



中尊寺金色堂入口で

—— 梅雨入り直前の好天に恵まれ、体育大会を実施しました ——

6月2日(土)、ここ数年の中では1週間遅い時期の開催で、梅雨入りが心配でしたが、グラウンドでのスポーツにはとてもよい天候のコンディションで行うことができました。

中学校では緑組、青組、黄組、赤組の4色で競い合います。それぞれの組の団旗を作って、団結心を強めます。団旗は生徒のオリジナルのアイデアで色にまつわる強そうなモチーフを考えます。製作時間など、共通で行い「装飾係」の生徒が心と気合いを籠めて作った物です。緑組は「大蛇 the Emerald Emperor」、緑色の大蛇がのたうちまわる様子が表されています。青組はサメをモ

チーフに「King of the Ocean 鯨」、シャークが上を向いて泳いでいる様子が表されていて水しぶきまで表されています。黄組は雷をモチーフに「雷神～疾風迅雷」、雷神の色合いもたくましく細かいところまで作り込んであります。赤組はサソリをモチーフに「The Scorpion」、サソリのはさみをはじめ存在感があります。

各団は1年生から3年生までの生徒を縦割り組織とし、3年生をリーダーとして、生徒が準備をしたり、自分たちで作戦を練ったりして進めてきました。また、応援合戦は競技の中でもひとときわ特色があり、各団が全員で大学のグラウンド全面を使って踊ります。

緑組・青組・黄組・赤組応援団と
大空に翻る手作り応援団旗



お知らせ

朝日小学生新聞に附属中学校の様子を連載しています、毎月1回金

附属学校園での出来事 (2012年4月～6月)



1年生 50m 障害走

団旗のモチーフを取り入れたり、独特の動きを工夫したり、3分半の中にすばらしいアイデアが組み込まれています。

運動会的な競技として、1年生のハードルを使った50m障害走では全員が走ります。授業での成果が見られます。2年生の「いかだ流し」と呼ばれる競技は、ウマになった生徒の背中を一人の生徒が素早く走りわたっていくもので、練習の成果が表れます。3年生の32人33脚はクラス全員の気持ちを一つに足並みをそろえて横1列になって走り抜ける競技です。2人3脚を巨大にしたようなものです。1人でもリズムが崩れると全員が転んでしまいます。油断するとケガをしてしまいます。2年生と3年生の色別対抗全員リレーは途中で抜きつ抜かれつつ、最後まで目が離せず結果が予測できないとてもハラハラどきどきする競技です。得点も大きいので生徒の応援もひときわでした。

ちなみに、今年度の総合優勝は青組でした。最後の記念写真の撮影タイムは生徒の生き生きとした顔であふれていました。

なお、参観者は、保護者・外来者あわせて870名でした。



2年いかだ流し



【いずみナーサリー】

4月

- 保護者会
- 避難訓練

5月

- 食事の勉強会
「ご飯と味噌汁に合うおかず」
- 保育参観
- 避難訓練

6月

- ナーサリー室内開放日
- 教育後援会総会
- 避難訓練

【附属幼稚園】

4月

- ホームカミングデー
- 始業式
- 入園式
- 避難訓練
- 保護者全体会
- 5歳児園外保育
- PTA総会
- 4歳児親子で遊ぶ日
- 誕生会
- 五月人形学内向け公開

5月

- 子どもの日の集い
- 健康診断
- 親子遠足
- 誕生会
- CAP講習会 (5歳児保護者対象)
- 教育実習

6月

- 教育実習
- 5歳児親子で遊ぶ日
- 避難訓練
- じゃがいも掘り (萩山郊外園)
- 3歳児親子で遊ぶ日

【附属小学校】

4月

- 始業式
- 入学式
- 委員会活動 (5・6年生)
- 全国学力・学習状況調査
- 新入生を迎える会
- 通学班別会
- 避難訓練
- 健康診断

5月

- 委員会活動 (5・6年生)
- 授業参観
- 保護者総会
- 教育後援会総会
- かがみ会総会
- たてわり活動
- 郊外園活動
(4・5年生さつまいも植え)
- ユタ大学給食参観交流
- 「宇宙学校・お茶の水」
JAXA川口淳一郎氏講演交流会
- 金環日食特別登校
- 教育実習
- 運動会
- 避難訓練 (緊急地震速報対応)

6月

- 衣替え
- 委員会活動 (5・6年生)
- 通学班別会
- 学年発表集会 (6年生)
- 水遊び・水泳開始
- 1・6年生郊外園活動 (じゃがいも掘り)
- ESD日米教員交流プログラム学校参観
- 茗鏡会の新入会員歓迎会
- 避難訓練 (防火シャッター体験)
- 学年発表集会 (5年生)

【附属中学校】

4月

- 始業式
- 入学式
- 全国学力・学習状況調査
- 避難訓練
- 3年生修学旅行
- 2年生理科実習 (江ノ島)

5月

- 健康診断
- 生徒総会
- PTA総会
- 教育後援会総会
- 部活動保護者会
- 1年生郊外園 (さつまいも植え)

6月

- 体育大会
- 2・3年生避難訓練
- 1年生保護者会
- 前期中間テスト
- 教育実習
- 2年生保護者会
- 3年生郊外園

【附属高校】

4月

- 始業式
- 入学式
- 1年生オリエンテーション
- 1年生池袋防災館・防災訓練
- クラブ紹介
- 3年生修学旅行 (沖縄)
- PTA総会
- 教育後援会総会
- 1～3年生保護者会
- 健康診断
- 避難訓練
- 自治会総会
- 歓迎会

5月

- 教育実習事前指導
- 1年生学年合宿
- 3年生学力テスト
- 2年生遠足 (箱根)
- 3年生郊外学習 (都内)
- 1年生農場実習 (さつまいも植え)
- 体育祭

6月

- 保護者授業参観
- 面談週間
- 1学期期末テスト
- I期教育実習

附属学校園からのお知らせ

キャンパス点描

第5回ホームカミングデイを開催しました ……………



羽入学長 開会の挨拶

2012年5月26日(土)に「お茶大の生き方を探る」をテーマに、第5回ホームカミングデイを開催しました。当日は様々な企画を用意し、500名を超える卒業生、在学生、教職員の参加がありました。

開会・贈呈式

午前の部は、羽入佐和子学長の開会の挨拶と、本学同窓会の桜蔭会遠藤由美子会長のご挨拶から始まりました。

開会挨拶の後、本学の発展に多大なご支援を賜りました方々に、感謝の意を表して「名誉学友記」および「感謝状」の贈呈式を執り行いました。

校歌合唱

贈呈式の後は、文教育学部芸術・表現行動学科音楽表現コースの学生合唱団による校歌「みがかずば」を参加者全員で合唱し、参加した卒業生は当時の学生時代を懐かしんでいました。

全学企画 第2部

第2部は、羽入佐和子学長とNHKアナウンサーの井上あさひさんとの対談「ライブトーク～お茶大の今を語る～」を開催しました。井上さんから「第1部での卒業生のキーワードを、どう理解したか?」、「輝かしい卒業生を輩出しているお茶大の教育の特色はなにか?」、「現在、どのような理念の下で教育をしているのか?」、「お茶の水女子大学論とはどのような授業か?」、「大学は今何に力を入れているのか?」などの質問があり、羽入学長のインタビューの答えを通して、参加者にお茶大の「今」を知っていただくことができました。

交流会

全学企画終了後には、大学食堂ホールで「交流会～登壇者とOG・在学生との出会いの場～」を開催しました。交流会では、全学企画の登壇者や在学生、卒業生が集い、にぎやかな時間となりました。特に、在学生が卒業生へ研究や進路について相談をしている姿が多く見受けられました。



校歌合唱

全学企画 第1部

全学企画の第1部では「卒業生からの発信～お茶大で学んで～」をテーマに、広く社会で活躍されている文教育学部、理学部、生活科学部の卒業生3名の方々にご登壇いただき、お茶大で学んで得たことが、卒業後から現在に至るまでの自身の仕事への考え方や生活スタイルの選択などにどのような影響を与えたかについて語っていただきました。またこれから新たな社会に飛び立つ在学生へのメッセージとして経験をもとにキーワードを発表していただきました。

<登壇者>

光畑 由佳さん 「考えない練習」
(昭和62年家政学部被服学科卒/モーハウス代表)

米田 敦子さん 「肩の力を抜いてトライする」
(平成4年理学部化学科卒/東京薬科大学助教)

井上 あさひさん 「私が伝えるしか、ない。」
(平成16年文教育学部人間社会科学科卒/NHKアナウンサー)

参加した学生からは「本学の卒業生が多様な環境の中で多くの苦難を乗り越えながら頑張っている話を聞き、『自分ももっと頑張らなければいけない。』と、勇気づけられた。」という声がありました。



ライブトーク



微音楽実行委員会によるキャンパスツアー

学部・学科企画等

このほか、並行して歴史資料館特別公開、附属図書館での卒業アルバム特別公開、在学生によるキャンパスツアー、大学グッズ販売、美術部作品展示や裏千家茶道部による呈茶(お茶室「芳香庵」)などの学生サークル企画も開催されました。

また、午後の部では、本学名誉教授による講演会などの学部・学科・講座・コース企画、卒業生企画が開催され、卒業生、在学生、教職員ともに充実した一日となりました。

※ 当日のスケジュールは、こちらから

http://www.ocha.ac.jp/graduate/news/g_19.html

ホームカミングデイは、隔年の5月の最終土曜日に開催されます。今回は平成26年の5月です。(詳しくは、ホームページでお知らせします。)

桜蔭会研究奨励賞授与式、 みがかずば奨学金授与式がおこなわれました

2012年5月18日(金)、平成24年度桜蔭会研究奨励賞授与式及び、みがかずば奨学金授与式を開催しました。

桜蔭会研究奨励賞は、平成19年度に本学同窓会の桜蔭会の助成により発足し、本学の学部から大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程に進学した学生の中から特に優秀でかつ将来が囑望されると認められる学生に贈られます。今年度は5名が受賞しました。

みがかずば奨学金は、お茶の水女子大学へ入学を希望する受験生に対して、入学後の生活の目処をたててもらうことを目的として、平成23年度に設立されたものです。今年度は、入試前に出願し内定を得た者の中から、本学に入学を果たした16名の学部1年生が奨学金受賞者として採用されました。

式典では教職員臨席のもと、羽入学長から賞状を授与、そして遠藤桜蔭会会長から目録が授与されました。



また、学長及び遠藤会長からお祝いと励ましの言葉がかけられ、桜蔭会研究奨励賞受賞者及びみがかずば奨学金受賞者の中から1名ずつ、代表として謝辞と今後の研究・学修・学生生活への意気込みについて挨拶を述べました。

学部生成績優秀者奨学金授与式がおこなわれました



2012年5月23日(水)、お茶の水女子大学学部生成績優秀者奨学金授与式を開催しました。

この奨学金は、学部3年に在学する学生のうち、1・2年次の成績、人物が特に優秀と認められた学生について、これまでの努力を評価し、今後一層の勉学を奨励することを目的として、平成23年度より設立されたものです。対象者は学部1・2年次から引き続き在学する本学学部3年生(中途に休学期間がない学生に限る。)で、奨学金給付額は、20万円です。

平成24年度は、厳正なる審査の結果、25名の学生が受賞者となりました。

式典では、関係教職員臨席のもと、羽入学長が受賞者一人一人に賞状と目録を授与し、お祝いと励ましの言葉を述べられました。

春の叙勲受章者(本学関係)について

平成24年春の叙勲受章者が発表されました。本学関係の受章者は、次の方です。

瑞宝中綬章 伊藤 厚子 お茶の水女子大学名誉教授



キャンパス風景
提供:お茶の水女子大学写真部

お茶の水女子大学学报 第 233 号

▽発行日 :2012 年 7 月 14 日

▽発 行 : 国立大学法人お茶の水女子大学

東京都文京区大塚 2-1-1 (〒 112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

学術・情報機構広報チーム

電話 03-5978-5105

FAX 03-5978-5545

E-mail:info@cc.ocha.ac.jp

URL :http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学报「GAZETTE」は、
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。